

育G新聞

Vol.17
イクジイが日本を元気にする。
毎月1回連載

育G新聞編集部 編集協力：
NPO法人 フザーリング・ジャパン
NPO法人 孫育て・ニッポン

育G インフォメーション

楽しい子育て・孫育て講座

【日 程】8/2(金)、9/6(金)、10/4(金)

【時 間】午後1時30分～3時30分

【参加費】1000円（一家族）

【場 所】東京都台東区
社団法人日本助産師会2階研修室

【対 象】祖父母、ママ・パパ

【主 催】社団法人日本助産師会2階研修室
NPO法人 孫育て・ニッポン

NPO法人 孫育て・ニッポン
会員募集中！

家庭や地域で「孫育ての笑（わ）」を広げる仲間を募集しています。孫の有無、年齢、性別は問いません。9月から会報「おまご新聞」（年4回）を発行予定。

詳しくは→www.magosodate-nippon.org

★育G登見★

No.17
(株)ATLジャパン代表取締役
NPO法人工ガリテ大手前 代表
古久保 俊嗣さん



相手の親との付き合い方、介護、そして、
でてきたのが孫です。」

ソフリ工講座は、2005年にスタート。
自治体とのコラボレーションなど計画を
していたが、当時は誰も見向きもしな
かったという。

「現代の少子高齢化、女性の就労問題、
保育園の待機児童問題などを考えると、
時間はあるがチャンスがなく、誰からも
信頼されていない、おじいちゃんの活用
に着目しました。」

講座は1日6時間。孫育ての基本、
日常生活、ふれあい、安全の4科目を
学び、お昼には調理実習が組まれ、受講
者には認定書がおくられる。

「ソフリ工講座は、孫との関わりだけ
でなく、男性の生活力を上げることを目的
としています。定年退職後の家庭参加、
社会参加、地域参加が求められています
が、退職したからといってすぐにできる
わけではない。孫の誕生は人生最大の
チャンスです。働く=協力、教育すること。
おじいちゃんは長年それらを培つ
てきたその道のスペシャリスト。だから、
講座で少し知識をつけて自信を持って欲
しい。」

現在エガリテ大手前では、九州大学
名誉教授の井口潔氏らと、シニア世代が
サポートし、子どもたちの「生きる力」
を育むプログラム「IQNOH(イック
ノウ)」を開発中。「ソフリ工講座」、
世界初宅配型市民大学「エガリテ市民
大学」とともに、楽しみ、喜びがある
プログラムが期待される。

育G潮流

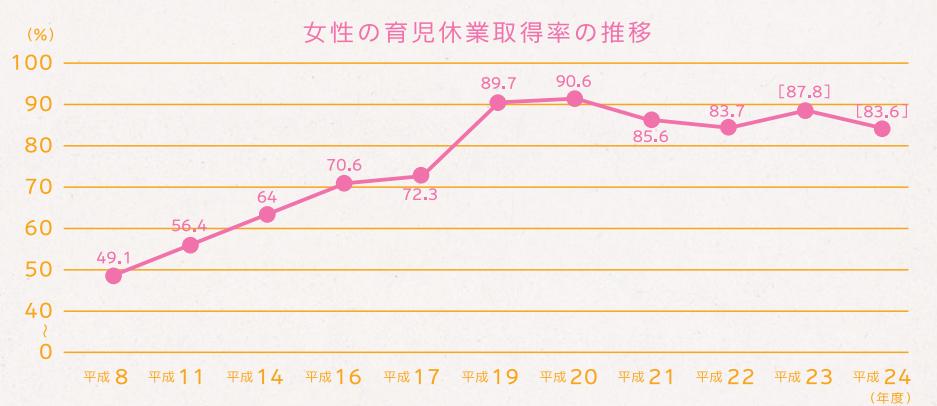
—男性の育休はなぜ増えない？—

7月上旬に発表になった男性の育児休業取得率は、1.89%と前年と比べ0.74%減少した。世の中的には、イクメンブームもあり、男性の子育てはアタリマエになってきた感があったが、実際にはまだ結果に結びついていないようだ。

なぜ男性の育児休業取得率が上がらないのか。当事者のパパたちは、「今後の昇格、昇級に影響が出そうで心配」「前例がない」と言う声が聞こえてくる。

上司であるみなさんがご自身の経験を踏まえ、「後悔しないように、育休をとって子育てしてこい！」と部下に声をかけるようにしたら、日本の男性の育休取得率も上がるのではないかだろうか。

(NPO法人孫育て・ニッポン ぼうだあきこ)



※注：平成23年度及び平成24年度の〔 〕内の比率は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

育G STYLING

育Gスタイリスト G・ハヤシが「ソフリエ」のみなさんに聞きました。
いまどきの孫育てのコツとは？

最重要ポイントは、昔の育児の「常識」にとらわれないこと。たとえば、昔は、おむつをとるために早い時期からの「トイレ・トレーニング」に熱心だった。→今は、おねしょも5~6歳まで気長に待つのがよいとされる。夜中に起こしてトイレに行かせることは、膀胱や尿量を調整するホルモン分泌の発育のために逆効果。

昔は、自立が遅れるなどと「添い寝」に否定的だった。→今は、赤ちゃんがぐっすり安心して眠るなら「添い寝」もよい。などなど。とにかく、今の育児を素直に学ぶのがポイント。

ママにも積極的に質問してみるとコミュニケーションがはかれて、さらに一石二鳥です！

